

二五二三番

さにつらふ 色には出でず すくなくも 心の
中に 我が思はなくに

二五二四番

我が背子に 直に逢はばこそ 名は立ため 言の
通ひに なにかそ故

二五二五番

ねもころに 片思すれか このころの 我が心ど
の 生けるともなき